

JKが絵本を作っちゃおう！
～子どものジェンダーや性の多様性についてメディアの観点から考える～

土浦第一高等学校
2年B組 田中 翠海 2年F組 篠崎 芽依
指導教諭:鈴木 美樹 先生

【Abstract】

Gender discrimination and prejudice against sexual diversity are still deeply rooted in Japan. We believe that one of the reasons for this is the influence of children's education from childhood and the media they see on a daily basis. In this study, we created a picture book to convey gender and sexual diversity to children who will lead Japan in the future, in order to contribute to building a society where everyone can live more true to themselves.

【要旨】

未だに男女差別や多様な性への偏見が根強く残る日本。その原因の一つに幼少期からの教育や日々目にするメディアからの影響が挙げられると考えた。本研究では、より皆が自分らしく生きられる社会の構築に寄与するため、これからの日本を担う子供達にジェンダーや性の多様性について伝える絵本を作成した。

1. 序論

ある程度の年齢になった人々の意識の中に既に根付いてしまった偏見や差別意識を取り除くのは難しい。そこで私達はこれからの日本を担う子供達に目を向けた。私達の考えを伝える手段として、彼らが普段目にするメディアであり、高校生でも作成可能な媒体として絵本を選択した。

2. 調査方法

- A. 論文を読み込む
- B. 保育園で働く方々に対してアンケートをとる
- C. にじいろCANVASの方にインタビューをする
- D. 金港堂の皆様インタビューをする
- E. 浅草で外国人観光客の方にインタビューをする
- F. 絵本の提案

3. 本論

A. 論文から得たこと

「子ども向けマス・メディアに描かれたジェンダー —テレビおよび絵本の分析—」(2003藤田由美子さん)の論文を読み、特に印象に残った部分が3つある。一つ目は子どものメディアは子ども達の生活の中で重要な部分を占めているということだ。

筆者が2001年3月に行った幼稚園・保育園での保護者調査によると、子どもは1日のうち1.70時間テレビを視聴し、絵本は1ヶ月に8.28冊読んでいた。(藤田2002,31頁)また、子どもたちは遊びの中でしばしばメディアについての情報交換をしている。(藤田 前掲書,27頁)(藤田2003 p.260)

この論文を読む前は日本の古くからの考え方が原因であると考えていたが、この文章を読んだからメディアの観点から考えることができるようになった。

二つ目はキャラクターの性別に偏りがあるということだ。論文からは様々な現状を知ることができた。

たとえば、欧米でのテレビにあらわれた性役割の内容分析研究において、おおよそ女性対男性の比率は3:7である。(Durkin1985)。また、日本におけるアニメ番組の分析でも、女性の登場は4割に過ぎない。(藤田1996)。また、教科書においても、女性の登場が少ない。国語の教科書のキャラクターのうち女性は30%弱である。大人のキャラクターに限ればさらに少なくその割合は20%にも満たない。(倉田1987、伊藤ほか1991)
(藤田2003 p.260)

やはり、絵本やアニメの世界では男性のキャラクターが多いことがまだあるようだ。三つ目は役割描写の傾向があることだ。女性は家事、男性は仕事のような役割描写が多いようだ。

多くのメディア分析において、「男は仕事、女は家庭」といういわゆる「性別役割分業」に関する描写が顕著であると報告されている。また、男性キャラクターの多くは職業を持ち、その職種は多様である一方、女性は職業を持たず、教師、看護婦、などといった、「女性の職業」とみられる職業についている者が多い。また、性格描写にも、性役割が描かれていることが指摘された。すなわち、女性は「かわいい」「やさしい」人物として描かれることが多く、男性は「強い」「たくましい」と描かれることが多い。さらに、キャラクターが作品中で果たす役割を分析した研究は、ジェンダーによる役割分業を指摘している。すなわち、男性は能動的な役割。女性は受動的な役割である、という役割描写の違いがみられる。(藤田2003 p.260-261)

これらのことからメディアの表現が子ども達の捉え方に影響を与えうると考え探究を進めていった。

B. 保育園で働く方々に対してとったアンケートの結果

子どものジェンダーに対する意識の現状を調査するためにアンケートをとった。子どもと関わる方の様々な視点から調査をしたかったので、保育士の方だけでなく保育園で働く方々を対象にし、32の方に回答をしていただいた。子どもにジェンダー教育を行う必要があると思いますか(図1)、子ども達に読む絵本を選ぶときに気をつけていることは何ですか、普段の生活の中で子ども達との接し方において気をつけていることはありますか、近年で幼児のジェンダー教育においてなにか変化したと感ずることはありますか、を質問した。

〈問〉子どもにジェンダー教育を行う必要があると思いますか？

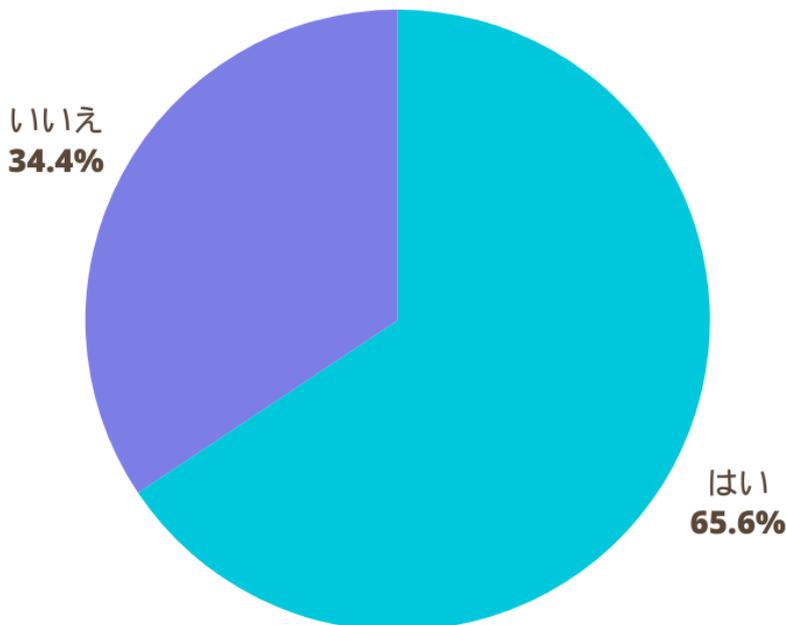


図1

〈問〉普段の生活の中で子ども達との接し方において気をつけていることはありますか？

- ・言葉遣いを気をつけている
- ・男、女で分けることをしない
- ・男の子だから、女の子だからをあまり言わないようにしている
- ・色を選ぶ時など、誰がどの色を選んでも自由など
- ・なるべく目線に合わせて話す
- ・話していることを最後まで聞き、そこから話を広げる
- ・成長にあった言葉がけ
- ・名前をさん呼びで呼ぶように心がけている
- ・男女一緒に遊べる内容のものを考えて、保育士も一緒に遊ぶ
- ・子ども達から出た意見を否定しない
- ・選択を求める際に、男の子らしさ、女の子らしさでよくある選択では別、逆のものも含めておく
- ・「かっこいいね」「かわいいね」などの表現も男女関係なく使う
- ・呼んでほしい名前、あだ名等を本人に聞く

〈問〉近年で幼児のジェンダー教育においてなにか変化したと感ずることはありますか？

- ・「ちゃん」「くん」を使わずに「さん」を使うようになった
- ・性別に関係なく、色やキャラクターを選んでいる
- ・男女ともに使える名前が増えてきた
- ・子ども達が選ぶ習い事
- ・ランドセルの色選び

- ・ロッカーが誕生日順
- ・ダンスの発表などで混合グループを作る
- ・背の順で並ぶ時には男女に分けずに並ぶ

多くの変化があることを知ることができたが、32人中12人は「あまり変化を感じない」と答えた。これにより、私たちはもっと積極的になにか行動を起こすことが必要であると考え、絵本を作ることにした。

C. にじいろCANVASの方に伺った話

にじいろCANVASとは宮城県仙台市にある多様な性に関する活動に取り組む任意団体である。

そこではジェンダーや多様な性という繊細なテーマを扱う上で、どのような配慮が必要か、どのような内容が好ましいか等当事者の率直な意見を伺った。

お聞きした話から抜粋すると、テレビなどのメディアにより近年で多様な性への理解は広がっている。セクシャルマイノリティを何か特別なことのように扱わないでほしい、至って普通のものとして登場させてほしいとのことだった。

上記のお話から、私達は女性同士の恋人達と同性愛者の少年を登場させることとした。

D. 金港堂の皆様へ伺った話

金港堂とは宮城県仙台市に所在し自費出版も多く手掛ける老舗の出版社である。

当初自費出版も視野に入れていた私達は、絵本を制作する上で重要なことや実際に自費出版された絵本を見せていただき予算についてなど現実的なお話もお伺いした。重要なことは人の目を引く表紙を作ること、子供たちにもわかりやすい内容であること、とのことだった。自費出版については、どうしても私達高校生にはなかなか工面出来ない金額のお金が必要になってしまうため、一旦自費出版は諦め別の方法で本として形にすることにした。

E. 浅草でのインタビュー調査

海外の意識の現状を調査するため、浅草を訪れていた海外出身の方々30人にインタビューを実施した。男女差別は減少していると思いますか、(Do you think there is less gender discrimination these days?) (図2)性教育は必要だと思いますか、(Do you think gender education is necessary?)(図3)を質問した。

問 男女差別は減少していると思いますか。Do you think there is less gender discrimination these days?

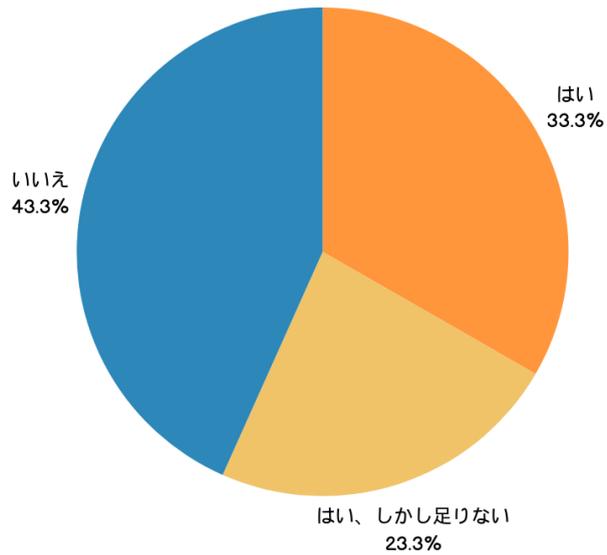


図2

問 ジェンダー教育は必要だと思いますか。Do you think gender education is necessary?

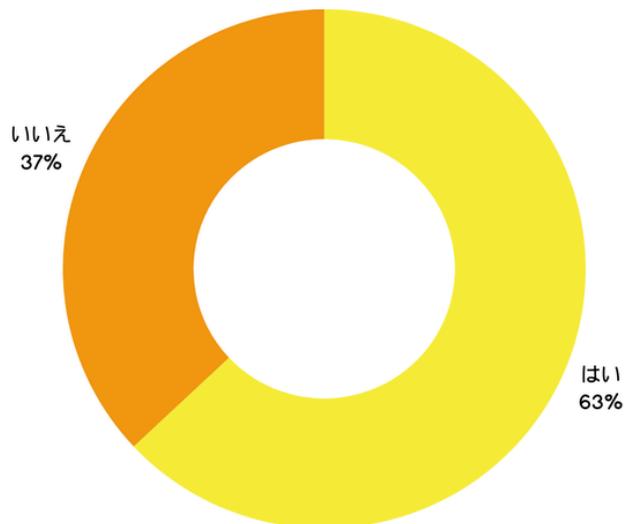


図3

これらの結果より、日本以外の海外でも意識されていると考え、絵本を英語に翻訳することにした。

F. 絵本の提案

これらの探究をもとに私たちは子どものジェンダー教育に有効な絵本を提案する。

この絵本の主人公は、ボーイッシュな女の子のエミリと男の子と一緒にいるのが好きな男の子のレイである。始め、2人は自分のことで悩んでいる。2人が眠っていると不思議な生き物プラナが夢に現れ、2人をプラナリア国に連れていく。そこで彼らは、父親が料理をしているところ、女性だ

けの家庭、全身紫色の服を着ている人など、自由に快適に暮らす人々を見つける。最終的に彼らは自分の気持ちに従って、自分たちの人生を生きることを決意する。

このようなあらすじとなっている。

物語の構成、文、絵まで全て私たちが担った。実際に聞いたお話を踏まえ、多様な生き方があたりまえであることを伝えること、そして子どもたちに伝わりやすい文章にすることを心がけた。この絵本で最も伝えたいことは世界には多様な人がいるということである。以下に私たちが作った絵本の一部を添付する。

こちらは2人が悩んでいる場面である。



プラナがやってくる。



プラナリア国で多様な生活を見つける。



最終的に2人は自分らしく生きることを決意する。



4. 結論

世界には様々な人がいることを理解し、尊重することが大切である。男女平等は日本だけの問題ではなく、世界全体の問題であるため、もっと多くの人々が行動を起こす必要がある。

誰もが自分らしく生きられる社会を願って

5. 謝辞

保育園で働く皆様、にじいろCANVAS様、金港堂様、インタビューに協力して下さった皆様に感謝申し上げます。

6. 参考文献

1 子ども向けマス・メディアに描かれたジェンダー —テレビおよび絵本の分析—
<https://phoenix.repo.nii.ac.jp/records/508>

2 テレビアニメが子どものジェンダー意識の形成に及ぼす影響 —内容分析と子どもへの聞き取り調査を中心として—
<https://toyoeiwa.repo.nii.ac.jp/record/122/files/KJ00004240863.pdf>

3 サザエさん家のおいしい食卓

<https://ameblo.jp/piko-choko-pyoko/entry-12505611320.html>